

学校だより

プラタナス



令和3年12月1日(水)

市川市立市川小学校

No.24 校長 蜂須賀 久幸

<https://ichikawa-school.ed.jp/ichikawa-sho>



ダメな人なんていない！

たまたま読んだ書物で、『ひびわれ壺』の話を知りました。インドの寓話で、様々なところで紹介されているというので、ご存じの方もいらっしゃるのではないのでしょうか。早速紹介します。

インドのある水汲み人足（人夫）は、2つの壺を持っていました。天秤棒の両端にそれぞれの壺を下げ、肩にかけて、ご主人様のために毎日水を運んでいました。

その壺の一つにはひび割れがありました。もう片方の完璧な壺が、小川からご主人様の家まで一滴の水もこぼさないのに、ひび割れ壺は人足が水をいっぱいに入れてくれても、ご主人様の家に着くころには半分になってしまうのです。

完璧な壺は、いつも自分を誇りに思っていました。なぜなら、彼は自分の役目を十分に果たしていると満足していたからです。逆に、ひび割れ壺はいつも自分を恥じていました。なぜなら、自分の目的を半分しか達成することができず、惨めな気持ちになるからでした。

2年がたち、すっかり元気をなくしていたひび割れ壺は、ある日、川のほとりで水汲み人足に言いました。

「私は自分が恥ずかしいのです。そして、あなたにすまないと思っています。」

「なぜそんな風に思うのか？」

水汲み人足は尋ねました。

「何を恥じているのだい？」

「この2年間、私はこのひびのせいで、あなたのご主人の家まで水を半分しか運ぶことができませんでした。水が漏れてしまうから、あなたがどんなに努力しても、その努力が報われず、半分しか役に立っていません。それが辛いのです。」

と、壺は言いました。

水汲み人足は、ひび割れ壺を気の毒に思い、そしてこう言いました。

「これからご主人様の家に帰る途中、道端に咲いているきれいな花をよく見てごらん。」

天秤棒にぶら下げられて丘を登っていくとき、ひび割れ壺は毎日通る道端に、お日様に照らされながら美しく咲き誇る花があることに気づきました。

花は美しく、壺は少しだけ元気になったような気がしましたが、ご主人様の家に着くころには、また水を半分漏らしてしまった自分を恥じて、人足に謝りました。

「ごめんなさい。やっぱり私は役に立たない壺です。ごめんなさい。」

すると、水汲み人足は言ったのです。

「気がつかなかったのかい？花は君の側にしか咲いていなかっただろう？僕は君から落ちる水に気づいて、君が通る側に花の種を蒔いておいたんだ。そして、君は毎日、僕が小川から帰る途中、水を撒いてくれた。この2年間、僕は毎日その花を切り、ご主人様の食卓に飾ることを欠かしたことがない。君のおかげで、ご主人様はこのきれいな花を眺めながら食事を楽しむことができるんだよ。」

菅原裕子訳「ひび割れ壺」ほか参考

裏面へ続く



子供たちと一緒に読んでいただけたら幸いです。

完璧な壺のように、効率よく目的を達成することができる人もいれば、その半分しか達成できない人もいます。でも、知らず知らずのうちに、数値化できない「花」という功績を残しているかもしれないかもしれません。

サッカーチームだって、点取り屋ばかりでは成り立ちません。パスナーも必要ですし、ディフェンスだって重要です。さらにはケガなどに備えていつでも対応できる控え選手、対戦相手を分析する人、ケガなどをしないように入念にグラウンド整備を行う人など、あちらこちらに「花」は咲いているのではないのでしょうか。

配慮を要する子供たちや大人もいます。他人と比べたらできないこと、うまくいかないこともあるでしょう。しかし、目を向けるべきはそこではないように思います。「ひびわれ壺」だからこそ輝けるものを引き出した水汲み人足のように、それぞれの人が持つ、一見気づきにくい「花」を見つけられる教職員、保護者でありたいと願います。

いよいよ師走です。子供達には、4月からの軌跡の中に「自分の良さ」「咲かせた花」を発見し、まずは3月まで、そしてその先の道程を思い描きながら、次の一步をどう踏み出すか考えてほしいと思います。そういう節目となるのがこの12月です。



第一中フロックコミュニティクラブ主催 <11月13日> お化け大会NEO (コロナ対策バージョン)

今年度の春過ぎから、市川小学校児童を対象にしたイベントの開催を検討して下さっていました。そして、夏休みにお化け大会を行う青写真が出来上がっていましたが、感染症拡大により断念せざるを得ませんでした。その後、コロナ対策バージョンとして9月末実施を計画しましたが、また流れてしまったという経緯があつての今回でした。

スタッフ間、スタッフと参加者間、参加者同士の感染症対策、その他の環境への配慮などを徹底して実施に至りましたが、子供たちの歓声と満足そうな表情で、スタッフの方々の苦労も報われたのではないのでしょうか。



約300人の児童が参加しました。灯りの消えた夜の学校の怖さ、光のありがたさなどを感じられたでしょうか。送り迎えをして下さった方、企画・運営してくださった方、皆さんにお礼を申し上げます。



通学路の安全対策として市へ要望していた、正門前歩道のカラー舗装化が実施されます。誘導員の指示に従って、安全な通行をお願いします。 ※工事期間 12月1日頃～12月20日頃の9時～17時